

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成30年5月24日 (2018.5.24)

【公開番号】特開2018-51344(P2018-51344A)
 【公開日】平成30年4月5日 (2018.4.5)
 【年通号数】公開・登録公報2018-013
 【出願番号】特願2017-230193(P2017-230193)
 【国際特許分類】

A 4 7 L 9/04 (2006.01)

A 4 7 L 9/28 (2006.01)

A 4 7 L 9/00 (2006.01)

【F I】

A 4 7 L 9/04 A

A 4 7 L 9/28 E

A 4 7 L 9/00 1 0 2 Z

【手続補正書】

【提出日】平成30年3月6日 (2018.3.6)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

吸込口と排気口とを有する自走可能な筐体と、
 前記吸込口に設けられた回転ブラシと、
 筐体の前後方向中間に前記筐体が床面を自走するために設けられた一対の駆動輪と、
筐体底部に設けられたサイドブラシと、
前記筐体に内蔵され、前記回転ブラシと、前記サイドブラシとを動力伝達機構を介して
 回転させる駆動モータと、
 床面上の空気を塵埃と共に前記吸込口から筐体内の集塵ボックスに吸引しかつ塵埃が除去された前記集塵ボックスを通過した空気を前記排気口から外部に排出するための送風部とを備え、
 前記送風部は、ハウジングと前記ハウジングに収納される電動送風機とを有し、
 前記ハウジングは、筐体内に開口し前記電動送風機で発生した気流を流出させる通風口を有し、
 前記流出した気流は、前記通風口に対向する近傍位置に配された部材に当たって、前記駆動モータを冷却した後、前記筐体の隙間や貫通孔から筐体外部へ排出されることを特徴とする自走式掃除機。

【請求項 2】

前記駆動モータは前記回転ブラシの左右両端の一方の近傍に配置され、
 前記通風口は、前記ハウジングにおける前記駆動モータが配置される側に設けられたことを特徴とする請求項 1 に記載の自走式掃除機。

【請求項 3】

前記サイドブラシは、筐体前方底部の左右両側に設けられていることを特徴とする請求項 1 に記載の自走式掃除機。

【請求項 4】

前記集塵ボックスを通過した空気は、斜め下方に向かう気流となって前記送風部に流入

することを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか 1 項に記載の自走式掃除機。

【請求項 5】

吸込口と排気口とを有する自走可能な筐体と、
前記吸込口に設けられた回転ブラシと、
筐体の前後方向中間に前記筐体が床面を自走するために設けられた一対の駆動輪と、
筐体底部に設けられたサイドブラシと、
前記筐体に内蔵され、前記回転ブラシと、前記サイドブラシとを動力伝達機構を介して
回転させる駆動モータと、
床面上の空気を塵埃と共に前記吸込口から筐体内に吸引しかつ塵埃が除去された空気を
前記排気口から外部に排出するための送風部とを備え、
前記送風部は、ハウジングと前記ハウジングに収納される電動送風機とを有し、
前記ハウジングは、筐体内に開口し前記電動送風機で発生した気流を流出させる通風口
を有し、
前記流出した気流は、前記通風口に対向する近傍位置に配された部材に当たって、前記
駆動モータを冷却した後、前記筐体の隙間や貫通孔から筐体外部へ排出され、
前記筐体は、蓋部を有する天板を含み、
前記蓋部の外縁部から前記筐体外部へ排気することを特徴とする自走式掃除機。

【請求項 6】

前記駆動モータは前記回転ブラシの左右両端の一方の近傍に配置され、
前記通風口は、前記ハウジングにおける前記駆動モータが配置される側に設けられたこと
を特徴とする請求項 5 に記載の自走式掃除機。

【請求項 7】

前記サイドブラシは、筐体前方底部の左右両側に設けられていることを特徴とする請求
項 5 に記載の自走式掃除機。

【請求項 8】

前記蓋部の外縁部から前記筐体外部へ斜め上方に向けて排気することを特徴とする請求
項 5 から 7 のいずれか 1 項に記載の自走式掃除機。